

## 令和2年（2020年）の大雪山の火山活動

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

## ○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2020年の発表履歴

2020年中変更無し	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

## ○2020年の活動概況

## ・噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～4）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2月5日に実施した上空からの観測（第一管区海上保安本部の協力による）では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状況に異常は認められませんでした。

## ・地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

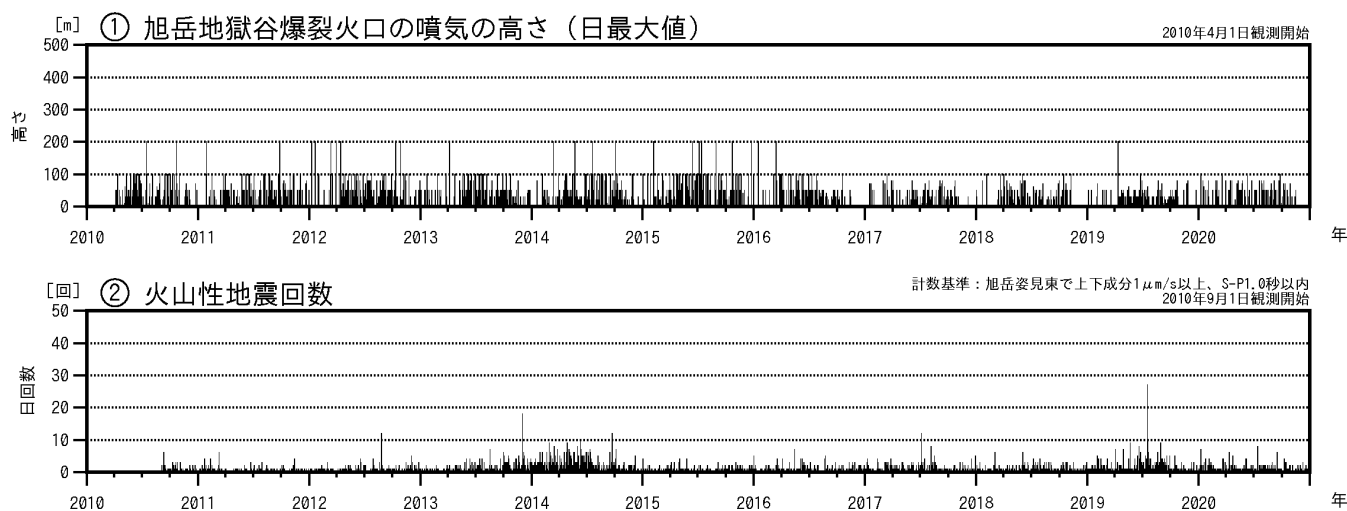


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2020年12月）

この資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています。

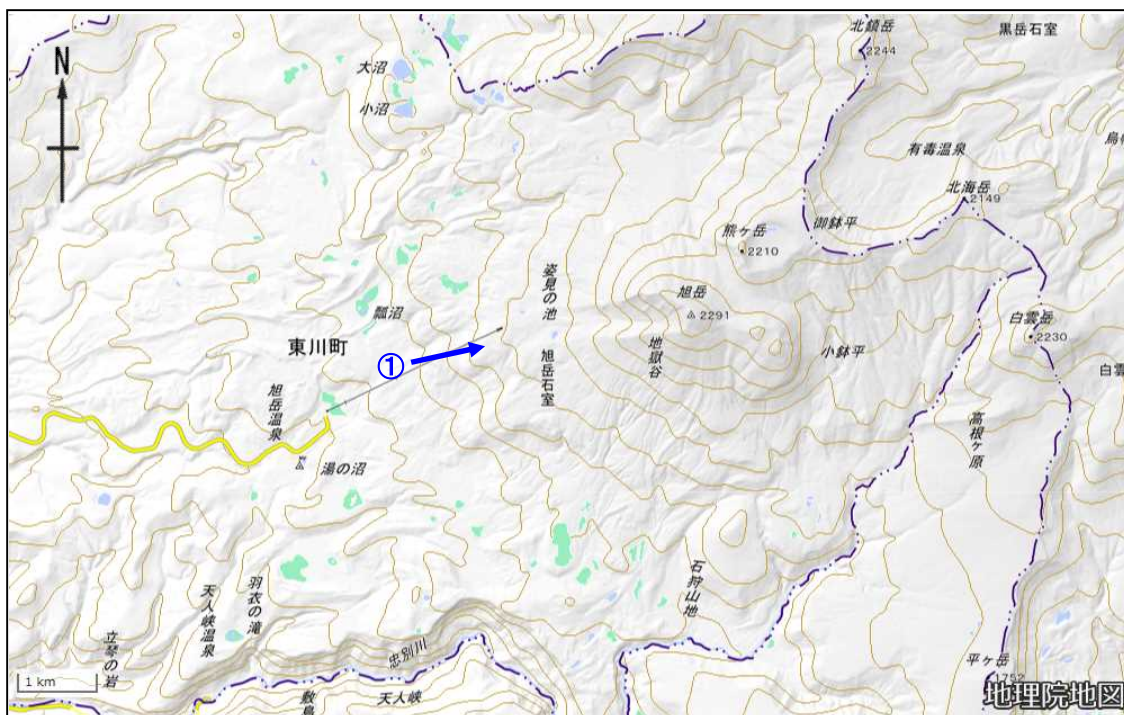


図2 大雪山 山体周辺図と写真の撮影方向（青矢印）



図3 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口全景

西側上空（図2の①）から撮影

・旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状態に異常は認められませんでした。

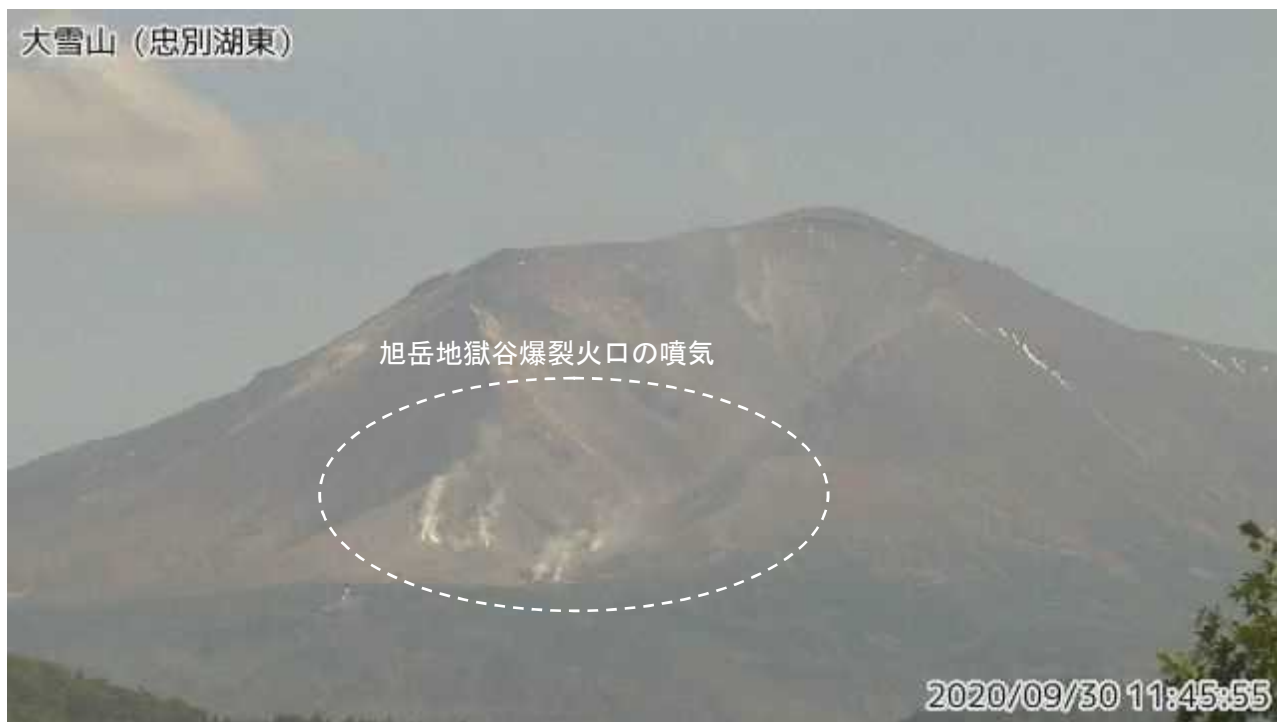


図4 大雪山 西側から見た旭岳の状況 (9月30日、忠別湖東監視カメラによる)

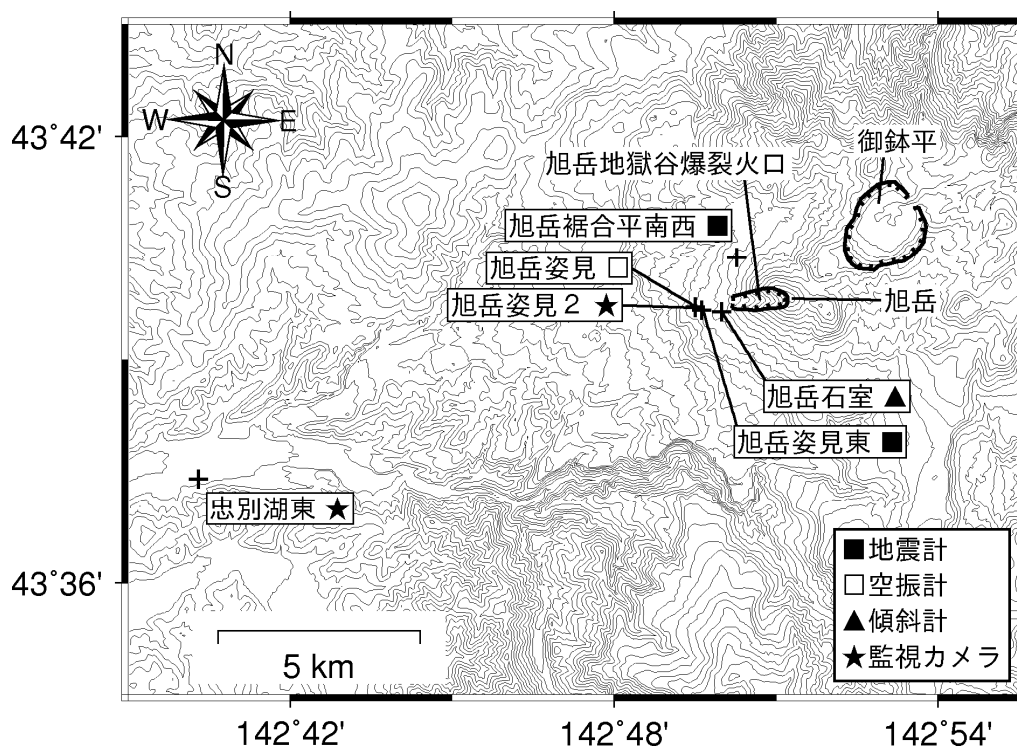


図5 大雪山 観測点配置図  
+印は観測点の位置を示します。

表1 大雪山 観測点一覧（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）  
記号は図5に対応しています。

記号	測器種類	地点名	位置				観測開始日	備考
			北緯(度分)	東経(度分)	標高(m)	設置高(m)		
■	地震計	旭岳姿見東	43 39.66	142 49.62	1607	0	2010年9月1日	
		旭岳裾合平南西	43 40.37	142 50.26	1711	-2	2016年12月1日	広帯域地震計
□	空振計	旭岳姿見	43 39.71	142 49.51	1592	7	2010年9月1日	
★	監視カメラ	忠別湖東	43 37.48	142 40.27	420	13	2010年4月1日	
		旭岳姿見2	43 39.69	142 49.51	1596	27	2016年12月1日	可視及び熱映像
▲	傾斜計	旭岳石室	43 39.62	142 49.96	1677	-15	2016年12月1日	